



①玄関ホール ②ホスピタルストリートと外来ブロック受付 ③一般病室（4床室） ④カフェ・ラウンジ ⑤講堂（300人収容）



新病院の外観イメージ図

# 新病院建設事業の 実施設計を公表

市は、現在取り組みを進めている、新病院建設事業の実施設計を公表しました。市民の皆さんの生命を守る、地域の中核病院として、平成三十年十二月の開院を目指します。

## 新病院建設事業の進捗状況

新病院建設事業は、平成二十六年二月に、施設整備の基本となる新病院基本設計を作成し、同年九月には、公募型プロポーザルによる事業者選定を行い、設計・施工一括発注による事業契約を締結しました。

その後、一部既存施設の解体工事や造成工事と並行し、実施設計の検討を行い、基本設計からさらなる診療機能の充実などを図った「新病院実施設計」を取りまとめました。

## 外観は先進性と人や自然との調和を表現

同実施設計では、地域の

## 利便性の向上を目指して

エレベーターや階段は、院内各所にアクセスしやすいように、施設のほぼ中央に集約するセンターコア方式を採用するほか、待ち時間の短縮などを図るため、外来にはブロック受付を随所に配置します(②)。

また、病室には、医療ガス設備などの医療設備を集約配置するほか、内装には、木調の自然な色合いを採用するなど、落ち着いた雰囲気のある療養空間とします(③)。そして、一階にはカフェ(④)やコンビニエンスストア、美容室を設置するほか、二階には、食堂を設置し、病院利用者の利便性の向上を図ります。

## 地域がん診療連携拠点病院としての機能充実

地域がん診療連携拠点病院としての、さらなる機能充実を図るため、機器の更新時にも継続して治療が行えるよう「第二リニアック(放射線治療室)を先行して整備するほか、がん患

中核病院にふさわしい施設を目指し、①機能的で使いやすい病院、②災害に強い病院、③患者中心の病院、④働く人にとって魅力ある病院の四つをコンセプトに掲げて、設計を行っています。

外観デザインは、中核病院としての「先進性」と、地域の人や自然との「調和」を表現しています。

建物は、屋上にヘリポートを備えた鉄骨造り、一部鉄筋コンクリート造りの十三階建てとしており、環境に配慮するとともに、建設や維持管理に掛かる費用の低減も図っています。

また、診療床数は二百五十科で、総病床数は七百床を設置することとしています。

## 災害拠点病院としての機能充実

地震時の建物への影響を軽減し、安全・安心の医療継続を図るため、建物全体を免震構造としています。また、屋内外に災害時活動やトリアージ(※)を想定した施設を整備します。

このほか、講堂を一階に配置し、直接外部との出入り口を設け、感染症が大流行した際に、感染者の待合いや診療の場所とするこなどで、一般患者との動線を分離し、感染拡大を防止します。

※負傷者を重症度・救急度によって分類し、治療や搬送優先順位を決めるための手続き。

## 平成三十年十二月の開院を目指します

すでに、第一期の解体・造成工事(写真1)を始め、平成二十八年年度には本體工事に本格着手し、平成三十年九月の竣工、同年十二月の開院を目指します(図1)。

また、開院後は、第二期の解体・造成工事に着手し、平成三十二年度には全ての工事を完了する予定です。



〈写真1〉第1期の解体・造成工事（12月撮影）

〈図1〉事業スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
新病院	実施設計		本體工事		準備	新病院開院	
造成		1期造成				2期造成	
既存施設解体	1期解体					2期解体	
工事ステップ	← 新病院建設期間				← 既存病院解体・造成期間 (新病院開院後)		

○お問い合わせ  
総合磐城共立病院  
病院建設課  
☎ 26・3006